

1. 基本情報

事務事業名	11 永山公園総合運動場管理事業				事業類型	施設運営受益者負担型			
予算	会計 10	一般会計	款 10	教育費	項 05	保健体育費	目 01	スポーツ推進費	予算額 14,013 千円
長期計画	章 4	文化・交流活動がいづつまち	施策分野 4	スポーツ・レクリエーション	基本施策	(2) 体育施設の整備と管理運営の充実			
実施計画	事業番号・事業名	4-6 青梅市スポーツ推進計画の策定・推進							
関連計画	青梅市スポーツ推進計画								
根拠法令等	青梅市体育施設条例								

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	市民	目的（どういう状態にしたいのか）	市民の体育およびレクリエーションその他社会教育の振興を図り、心身の健全な発達に資する
-----------	----	------------------	--

3. 事業の指標と単位当たりコスト

							平成30年4月1日現在人口	134,708 人
成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	市民1人当たりコスト(b/人口)
利用者数	各施設利用者合計数	人	目標				0	126.5 円
			実績			52,074	52,074	
			単位コスト	円	円	327 円	327 円	
稼働率	利用枠数/利用可能枠数	%	目標				0	市民1人当たり純行政コスト(f/人口)
			実績			47.7	47.7	
			単位コスト	円	円	357,170 円	357,170 円	

4. 行政コスト計算書

										(単位：千円)	
勘定科目	年度決算額	年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A	勘定科目	年度決算額	年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A		
経常費用	人件費	職員給与費		1,005	1,005	経常収益	分担金・負担金		0	0	
		賞与等引当金繰入額		89	89		使用料・手数料			1,362	1,362
		退職手当引当金繰入額		0	0		その他			20	20
		その他		0	0		合計(a)	0	0	1,382	1,382
	小計	0	0	1,094	1,094	臨時損失(c)			0	0	
	業務費用	物件費		13,541	13,541	臨時利益(d)			0	0	
		維持補修費		0	0	臨時損益(d-c-e)	0	0	0	0	
		減価償却費		2,356	2,356	純行政コスト(f)=(b+e)-a	0	0	15,655	15,655	
		その他		0	0						
	小計	0	0	15,897	15,897						
その他の業務費用	支払利息		0	0							
	取得不能引当金繰入額		0	0							
	その他		46	46							
小計	0	0	46	46							
小計	0	0	17,037	17,037							
移転費用	補助金等		0	0							
	その他		0	0							
小計	0	0	0	0							
合計(b)	0	0	17,037	17,037							

科目	年度決算額	年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A
国庫支出金			0	0
都支支出金			0	0
その他			1,382	1,382
合計	0	0	1,382	1,382

5. 人員体制

					(単位：人)
	年度	年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	
職員			0.12	0.12	
再任用職員			0.00	0.00	
嘱託職員			0.00	0.00	
計	0.00	0.00	0.12	0.12	

				(単位：%)
区分	年度	年度	30 年度	
有形固定資産減価償却率			88.2	
受益者負担割合(a/b)			8.1	

6. 行政コストの主な事項

	経常費用	経常収益・臨時損益
決算額の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> 管理運営委託料（指定管理料） 13,541,250円 	<ul style="list-style-type: none"> 使用料内訳（スポーツ推進課・市民センター等受付分） 陸上競技場：54,000円、野球場：60,000円、庭球場：774,400円、体育館：208,200円、弓道場：45,500円、夜間照明：219,900円 その他内訳 退職手当引当金減額分 20,000円
主な増減理由		

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		年度末 A	30年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	年度末 A	30年度末 B	対前年度 B-A
資産の部	有形固定資産	事業用資産	72,886	72,886	負債の部	固定負債	0	0
		土地	34,618	34,618		地方債	0	0
		建物	122,949	122,949		退職手当引当金	1,019	1,019
		減価償却累計額	-118,082	-118,082		その他	0	0
		その他	33,402	33,402		流動負債	0	0
		インフラ資産	0	0		1年内償還予定地方債	0	0
		土地	0	0		未払金	0	0
		工作物	0	0		賞与等引当金	0	0
		減価償却累計額	0	0		その他	0	0
		その他	0	0		合計	0	1,019
	物品	9,672	9,672	純資産の部	固定資産等形成分	72,886	72,886	
	減価償却累計額	-9,672	-9,672		余剰分(不足分)	-1,019	-1,019	
	無形固定資産	0	0		合計	0	71,867	71,867
	投資その他の資産	0	0		負債および純資産の部 合計	0	72,886	72,886
	現金	0	0					
未収金	0	0						
徴収不能引当金	0	0						
その他	0	0						
合計	0	72,886						

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産(土地)	勘定科目	事業用資産(建物)
決算額の主な内訳	永山体育館敷地面積 935.96平方メートル 弓道場敷地面積 4,205.14平方メートル	決算額の主な内訳	永山体育館 鉄骨造2階建 522.57平方メートル 永山公園体育施設管理事務所 鉄骨造2階建 134.10平方メートル 弓道場 木造平屋建 211.15平方メートル
主な増減理由		主な増減理由	

9. 事業の評価【一次評価】

29年度末時点の課題事項	2012年のスポーツ実施率28.8%、2016年の41.0%から更なる向上を図るため、市民がスポーツを気軽にできる場を充実させる必要がある。	対応結果 未解決	事業目的を達成するための30年度事業目標【Plan】	「青梅市スポーツ推進計画」に掲げる「週1回以上のスポーツ実施率を2023年までに70%以上とする」ことを目指し、施設の適切な維持・整備を行うとともに、施設を管理する指定管理者の民間事業者としてのノウハウを活用した効率的な施設管理と効果的な運営により、市民がスポーツを気軽にできる場を充実させ、利用者の増加を図る。		
上記目標達成に向けた主な活動実績効果【Do】	永山体育館を使用した柔剣道教室や自主事業によるテニス教室などを実施したが、前年度に比べ利用者は減少した。					
事業評価【Check】		総合評価【Check】				
【効率性】事業の進め方	C(悪い)	【経済性】予算の使い方	B(良い)	【有効性】施策達成に対し	C(悪い)	やや不十分
評価結果から明らかになった課題事項【Check】	利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図る必要がある。 また、永山体育館については、「青梅市公共施設等総合管理計画」において、「廃止する」と明記されていることから、体育館利用者に対し、施設廃止に向けた周知を図る必要がある。	今後の取組【Action】	利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図っていく。 また、永山体育館廃止に向け、利用者への周知を図っていく。	今後の方向性【Action】	現状維持	

※A 非常に良い=改善の余地なし、B 良い=必要に応じて改善、C 悪い=改善または休廃止を検討

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評価	本運動場は、陸上競技場、野球場、庭球場3面、体育館および弓道場からなる複合的な施設であり、特に陸上競技場については、各種スポーツ大会のほか、花火大会や産業観光まつりなど、市内外から多くの来場者が訪れている。また、野球場には夜間照明を設置しているほか、庭球場は全天候型として整備、弓道場は市内唯一の専用施設であることから、幅広いスポーツ愛好者に利用されており、認知度も高い。 しかしながら、全体の稼働率としては、必ずしも高くないことから、今後も指定管理者と協力して施設の魅力づくりに努めるほか、市民に対し利用機会の掘り起しを図るべく、既存事業の開催等において工夫するなど、稼働率を上げる工夫をする必要がある。 また、体育館については老朽化が著しいことから、公共施設等総合管理計画に掲げられている廃止に向け、施設利用者に対し丁寧な説明を行っていくこととし、体育館に対する修繕については、必要最小限にとどめることとする。
----	---